
新しい目で

parabel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新しい目で

【Nコード】

N3265I

【作者名】

parabel

【あらすじ】

世界規模の大戦で荒廃した世界、細かく分かれながらも緩やかに復興していかつて東京と呼ばれた地域のスラムで魔法使いの少年はたくましく生きていた

魔法とロボとSFと、いろいろ混じった遠未来ファンタジー

第一章 復活と世界と プロローグ（前書き）

初投稿です、感想、アドバイスなどお待ちしております

第一章 復活と世界と プロローグ

懐かしい夢を見ていた

目を覚ました時に自分の部屋なのにどこなのかわからない
こつという感覚を既視感の反対語で未視感というらしい。

どうでもいい事だが

しかしどうだろう、目を覚ました時目の前にいるのが無言？無拳
動？無表情と三拍子揃ったジジイだった時のなんともいえないこの
感覚にどんな名称を付けるべきなのだろう。

「目覚めたか」

対面しての第一声が目覚めたか、ですって。もうどんなリアクシヨ

ンすればいいんだろうか。

「声は聞こえているか？」

はい、と答えようとして気付く。声が出ない、いや、もっと根本的な問題がある。

背が小さい

液体が満ちた大きなフラスコの中で五歳ぐらいの体になった俺が目を見開いていた。

なんだこれは

「落ち着け、頷くか首を振るかでいい」

後々考えるとその時の俺は相当混乱していたのだろう、俺は素直に首を縦に振った

「声は聞こえているな？」

縦に振った

「目は見えているか？」

縦に振った

「なら……………自分の姿は見えるか？」

縦に振……………ろうとして驚いた。

俺は、自分の姿を見る事が出来た。

いや、これは「見る」というより「視る」という方が正しいだろう、目を通して見ている訳ではなく感覚的に　　そう、第六感というべきものによって視えていた。

「視えているようだな」

ジジイの声によって意識が現実に戻る。

俺は頷いた、目の前のジジイの白髪と白髭みげに虱みがいることも、目の前のジジイの白衣以外の服が一週間は着替えてないだろう位汚れていることも、目の前のジジイの足に水虫がいることも　　不潔なことこの上ないなこのジジイは　　視えていた。

「自分のことはわかるか？」

俺？俺は

首を縦に振った、名前、性別、年齢、住所、電話番号、家族構成、在学期に担任教師の名前、ついでに地元の名物まで全部言える。

「そうか、ではお前の今の状況を説明しよう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3265i/>

新しい目で

2010年10月11日00時35分発行